

絵本の世界へ

おはなし会で使えるブックリスト 0～2 歳児編



山梨県立図書館
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

はじめに

当館では、子どもの読書活動の実践に役立つガイドブックを作成しています。

平成26年3月には、図書館や幼稚園、小学校などで読み聞かせをする方に向けて「読み聞かせー実践のコツ&絵本の選び方ー」を作成しました。

今回は、赤ちゃんに読み聞かせやおはなし会をやりたいと考えている方に向けてのガイドブックです。読み聞かせの基本などに加え、おはなし会の進め方やQ & A、おすすめの絵本、赤ちゃんと一緒に楽しめるわらべうたなどを紹介します。

子どもと本を結びつけるおはなし会、あなたも実践してみませんか。

目次

はじめに	1
1 読み聞かせの基本	3
2 赤ちゃんと絵本	
(1) 赤ちゃんと絵本	7
(2) 赤ちゃんへの読み聞かせ	9
3 おはなし会	
(1) やってみようおはなし会	11
(2) おはなし会プログラムの例	13
(3) おはなし会Q & A	15
4 おすすめの絵本	17
5 わらべうた	27
6 参考図書	29

1 読み聞かせの基本

★読み聞かせとは

絵本を子どもに見せながら読んで聞かせる「読み聞かせ」は、「耳からの読書」とも言われ、字の読めない赤ちゃんでも絵本やおはなしの楽しさに出会うことができます。子育てのコミュニケーションツールにもなり、図書館や幼稚園、保育所、学校などで実施されています。

ここでは、集団への読み聞かせの基本について説明します。

★読み聞かせの効果

読み聞かせをしてもらった子どもほど、本好きになると言われています。また、言葉の発達につながり、想像力や心を育てるなどの効果があるとも言われています。



★読み聞かせの手順・方法

- ①読み聞かせをする対象を把握する
- ②読み聞かせに使う絵本を選ぶ
- ③事前に練習をする
- ④読み聞かせ本番
- ⑤振り返り・記録の作成

絵本の選び方

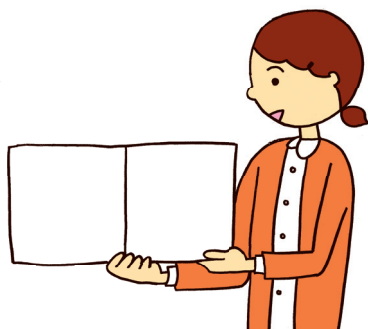
- *対象を把握したら、年齢に合った本を選びます。年齢が異なる子どもがいる場合には、小さい子どもに合わせます。
- *絵が遠くからでもはっきり見え、絵と文のバランスがとれたもの、リズムカルで心地よい言葉の本などを選ぶようにしましょう。
- *長く読み継がれているものや、定番と言われるもの、また、読み聞かせに合う本を紹介したブックリストなどで紹介されているものから、選ぶことをおすすめします。
- *子どもの聞く力には差があるので、一对一の時よりも少しやさしい本を選ぶとよいでしょう。
- *読み手の本への思いは子どもに伝わります。自分が楽しめる本、好きな本を選ぶことが大切です。

事前の準備と練習

- * 本に開きぐせをつけておくと、持ちやすくなり、子どもにも絵がよく見えるようになります。
- * 必ず声に出して読む練習をし、かかる時間も確認しておきます。

読み聞かせの方法

- * 本を持つ時は片手で本の「のど」の下部分をしっかり持ち、本がぐらつかないようにします。
- * ページをめくる時は、絵をじっくり見せ、タイミングや間を考えて、スムーズにめくります。また、手などで絵を隠さないようにしましょう。表紙、見返し、裏表紙などもしっかり見せます。



【絵本の持ち方】

読み聞かせ本番

- * 子どもが床に座っている時は読み手は椅子に座り、子どもが椅子に座っている時は読み手は立って読むとよいでしょう。
- * どの子どもからも本が見えるかを確認し、必要があれば自分の位置をずらしたり、子どもを移動させたりします。
- * 読む時は、ゆっくり、はっきり、心をこめて、一番後ろの子どもにも声を届けるつもりで読みます。また、ページをめくってすぐには読まず、一呼吸おいてから読むようにしましょう。
- * 子どもと一緒に楽しむつもりで読み、余裕が出てきたら子どもの反応を確かめながら読むとよいでしょう。

読み聞かせ終了後

- * 読んだ本やかかった時間、子どもの反応、自分の反省点などを記録しておきます。グループなどで読み手が何人もいる場合、次に読み聞かせをする時の参考にもなります。
- * 悩んだ時は読み聞かせグループの先輩に聞いたり、図書館に相談したりするのも一つの方法です。

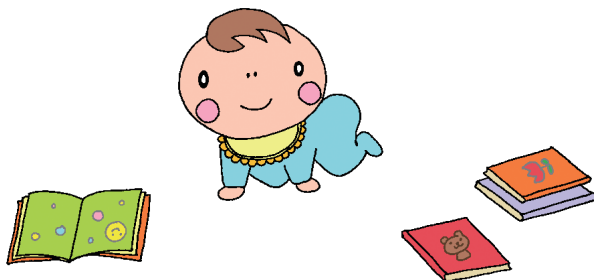
2 赤ちゃん絵本

(1) 赤ちゃん絵本

赤ちゃんにとって絵本は、周りの大人とコミュニケーションをとったり、楽しんだりすることのできるものです。親子で一緒に読むと落ち着いた時間を過ごせます。また、祖父母に読んでもらおうと、親とは違う声、トーンを認識します。おはなし会などに出かけ読み聞かせを聞くと、大勢の中で刺激を受けることができます。

赤ちゃんを絵本の世界へいざなう時、意味をなさない擬態語なども、絵と合わせて読むことで想像が膨らみ、音を楽しむことができます。想像の世界は無限に広がっていきます。

現実の生活に関わる絵本は、あいさつや食べ物、遊びなど身近なことを題材にした内容で、赤ちゃんが絵本の主人公のまねをすることで、暮らしの中で大切なことを覚えたり、人との関係を築いていくことができます。



赤ちゃん向けの絵本を読むのは、赤ちゃんのためだけではなく、読む側の大人にも良い効果が得られます。一番は赤ちゃんとの至福のひと時が過ごせることですが、赤ちゃんが絵本に興味を持って反応してくれた時、赤ちゃんの笑顔や成長が見られるのは、絵本を読む大人にとっても大きな喜びです。



赤ちゃんに絵本を読む時は、絵本と赤ちゃんに集中し、一緒に時間を過ごしましょう。読み手が心穏やかに読んでいる本は、赤ちゃんに優しく届きます。時間を気にして急かしたり、繰り返し読むことを面倒に思いながら読むと、赤ちゃんの興味は本から離れていってしまいます。赤ちゃんが本を嫌がった時は、無理をして読む必要はありません。赤ちゃんが喜ぶ時に読むとよいでしょう。

(2) 赤ちゃんへの読み聞かせ

赤ちゃんにいつからどんな絵本を読んだらいいのか、みなさんが迷うところです。正解はありませんが、いつでも手に取れる場所に絵本を置いておくと、赤ちゃんは自然と興味を持つようになるでしょう。

★月齢ごとの絵本の選び方

- * 0～2ヶ月：ほぼ、眠ってばかりの時期です。
- * 3～5ヶ月：音のする方へ目や顔を動かすようになる時期です。たくさん話しかけたりする中で、擬態語・擬声語の出てくる絵本を読んだり、色のはっきりした絵本を見せるとよいでしょう。膝の上にだっこして絵本を読むと、赤ちゃんは人のぬくもりを感じます。
- * 6～9ヶ月：おすわりができるようになると視界が変わり、対面で絵本を見せることができるようになります。動物や食べ物などの絵本を読むと、そのものに対する理解もできるようになってきます。

* 10～14ヶ月：はいはいをして自分で動き回るようになり、テーブルなどを使って、たっちやあんよができる赤ちゃんもいます。興味が多方面に広がり、赤ちゃん自身の「好きなもの」もわかるようになります。指をさして当てっこをする絵本などにも興味を示し、一緒に遊べるようになります。

* 15ヶ月～：物語性のある絵本や生活に関わる内容もわかるようになります。お気に入りの絵本を何度も「読んで」とせがんだり、同じページを読んでほしいがったりもしますが、赤ちゃんの興味にとことん付き合って本を読むことによって、感性が育ちます。



3 おはなし会

(1) やってみようおはなし会

★時間と場所、対象を決める

赤ちゃんの機嫌が良く、お昼寝の時間を外した午前中に開催することが多いです。

場所は、絵本がよく見え、声が届くようにあまり広すぎず、集中できる環境を整えましょう。親子で参加する場合には、親に協力してもらい、赤ちゃんの注意を本に向けるようにします。人数が多い時は、回数を増やして行くと、少人数で落ち着きます。

★内容（プログラム）を決める

全体の流れは、まず、本の世界にスムーズに入るための導入として手遊びなどを行い、その後、本の読み聞かせをします。わらべうたを歌ったり、最後に手遊びなどをして終わります。時間は15分から長くても30分以内を目安にしましょう。音や言葉を楽しむ本、動物の本、食べ物の本など、様々なジャンルの本を選び、プログラムを組み立てましょう。わらべうたには、行事や季節感を取り入れるのもよいでしょう。

★準備をする

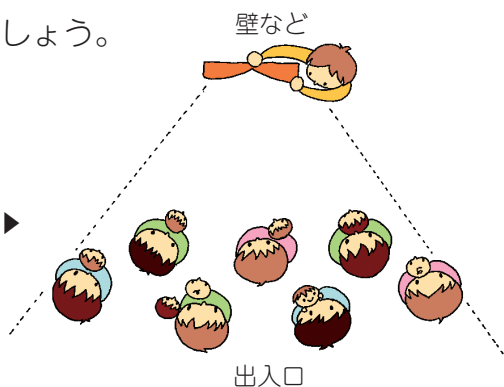
本は事前に声に出して読み、練習します。本番と同じように聞き手に本を見せるように持ち、声の大きさやかかる時間などを確認します。

★本番での注意点

会場では、読み手と聞き手の位置を決めます。聞き手は絵本の絵がよく見える位置、なるべく前方に扇形に座ってもらいます。読み手から全員の顔が見えるかどうかを確認します。

心をこめて、ゆっくりはっきりと読み、参加者と一緒に絵本の世界を楽しみましょう。

【聞き手の座り方】▶



★終了後にすること

反省会をして、良かった点、改善が必要な点などを話し合ひましょう。また、日時、場所、参加人数、読み手、プログラム、反省点は記録しておき、次回のおはなし会に活かしましょう。

(2) おはなし会プログラムの例

プログラム例 1

① 導入

♪くまさんくまさん

くまさんに合わせて、親が赤ちゃんの体を動かす姿が見られます。

② 絵本

『じゃあじゃあびりびり』 まついのりこ／作 偕成社 1983 年

オノマトペは、音を実際にイメージして読みましょう。

③ 絵本

『きんぎょがにげた』 五味太郎／作 福音館書店 1982 年

④ 絵本

『まるくておいしいよ』 こにしえいこ／さく 福音館書店 1999 年

知っている食べ物が出てくると声を出して反応します。

⑤ わらべうた

♪おやゆびねむれ

⑥ わらべうた

♪うまはとしとし

赤ちゃんの名前を入れると喜びます。動きの大きなわらべうたです。

⑦ 終了

♪くまさんくまさん

プログラム例 2

① 導入

♪がたとばす

② 絵本

『おにぎり』 平山英三／ぶん 平山和子／え 福音館書店 1992 年

おいしそうなおにぎりに思わず手が伸びる赤ちゃんもいます。

③ 絵本

『たまごのあかちゃん』 かんざわとしこ／ぶん

やぎゅうげんいちろう／え 福音館書店 1993 年

④ わらべうた

♪にぎりぱっちり

⑤ 絵本

『くっついた』 三浦太郎／作・絵 こぐま社 2005 年

親子でほっぺたをくっつける姿が見られます。

⑥ わらべうた

♪ここはとうちゃんにんどころ

⑦ わらべうた

♪ぼうずぼうず

歌詞の内容に親が笑顔になる、わらべうたです。

⑧ 終了

♪がたとばす

(3) おはなし会Q&A

Q 1 赤ちゃんに読み聞かせをしても反応がありません。絵本に興味がないのでしょうか？

A 反応が小さくても、赤ちゃんは全身でサインやメッセージを送っています。6ヶ月くらいになると絵本に興味を持ち始めますが、視力が聴力よりも劣ります。そのため、絵本を選ぶ時には、輪郭がはっきりとしている本や、原色などのわかりやすい色使いの本、見開きに一場面の本などシンプルな本を選びましょう。リズムや繰り返しが楽しい本や、生活の中の身近な物が描かれている本がおすすめです。

Q 2 子どもが途中で話しかけてきたり、立ち上がったたり、泣いたりします。どうしたらよいですか？

A 話しかけてくる子どもには目で合図をしたり、うなずいたりして本を読み続けます。動く子どもに気を取られがちですが、静かに聞いている子どももいます。泣き止まない場合は、親子で少し気分転換をしてきてもらいますが、手遊びやわらべうたになると落ち着くこともあります。いずれの場合も、読み手が動揺せず、そのまま読み続けましょう。

Q 3 絵本の中に歌が出てきます。どうやって読んだらよいですか？

A 絵本によっては、歌が出てきても楽譜が紹介されていないこともあります。その際は、物語の流れを活かすように、リズムや節をつけて読んでみましょう。読み手の個性が表れたメロディーが生まれます。ただし、読む度に違うメロディーにならないように気をつけましょう。

Q 4 本を読むだけではなく、手遊びをしたりわらべうたを歌ったりするのはなぜですか？

- A 毎回決まった手遊びを、導入と終了にすることで、子どもはおはなし会が始まること、終わることがわかるようになります。決まった形があると、安心して本の世界に入っていくことができます。また、集中力が持続しない幼い子どもの場合、本と本の間のつなぎとしてわらべうたを歌うと、気持ちが切り替わり、メリハリがつけます。
- 歌い継がれてきたリズムや言葉の響きは子どもにとって心地よく、親と子のコミュニケーションを助けてくれます。

Q 5 上手に読むコツはありますか？

- A 練習の時よりも、本番は早口になりがちです。ゆっくり、はっきりと後ろの人に声を届けるように読みます。本はスムーズにめくれるように、事前に開きぐせをつけておきましょう。表紙や裏表紙などもしっかりと見せ、ページをめくる前には1、2、3と心の中で数えると、子どもたちがじっくり絵を見ることができます。鏡の前で練習したり、他の人に聞いてもらうとよいでしょう。
- 子どもは読み手の表情も読み取ると言われているので、リラックスして楽しみながら読むことが一番のコツです。



4 おすすめの絵本

★音・ことば・リズムの絵本



『がたんごとんがたんごとん』

安西水丸／さく 福音館書店 1987年

「がたん ごとん がたん ごとん」汽車が走ってきました。そこへ「のせてくださーい」と駅で待っていた哺乳びん、コップ、スプーン、りんごなどが乗り込みます。赤ちゃんの身近にある物たちが一緒に終点の駅へ向かいます。リズムに乗って読んでみてください。



『ごぶごぶごぼごぼ』

駒形克己／さく 福音館書店 1999年

「ぷく ぷく ぷくん」「ごぶ ごぶ」「ごぼ ごぼ」「ざぶ ざぶ ざぶん」など、水をイメージするような不思議な音がいっぱいです。音に合わせた色とりどりの丸い玉も、赤ちゃんを惹きつけます。音の響きや色を楽しむ絵本です。



『じゃあじゃあびりびり』

まついのりこ／作 偕成社 1983年

「じどうしゃ ぶーぶーぶーぶー」「いぬ わん わん わん」「みず じゃあ じゃあ じゃあ」など、生活の中で赤ちゃんが会える音がたくさん詰まっています。シンプルで色鮮やかな絵と、身近な音が楽しめます。



『ぴょーん』

まつおかたつひで／作・絵 ポプラ社 2000年

かえる、こねこなど、動物たちが次々に「ぴょーん」とジャンプをします。さて、かたつむりは？見開きページいっぱい広がるジャンプに、一緒に飛びはねてみたくなります。動物による「ぴょーん」の違いを工夫して読んでみましょう。



『むにゃむにゃ きゃっきゃっ』

柳原良平／作・絵 こぐま社 2009年

いろいろな形に切ったいろがみを「むにゃむにゃ」「ぷく ぷく」「かしゃ かしゃ」などの音で表現しています。これは何の音だろう？と想像しながら読んでみましょう。



『もこもこもこ』

谷川俊太郎／作 元永定正／絵 文研出版 1977年

「しーん」「もこ」「によき」など楽しい言葉に合わせ、地面がふくらんだり形を変えたりします。最後ははじけて、また「しーん」。シンプルな絵にカラフルな色使い、そして不思議な音が楽しめます。

★生活・遊びの絵本



『いないいないばあ』

松谷みよ子／文 瀬川康男／絵 童心社 1967年

「いない いない……」。ページをめくると「ばあ」と笑顔が現れます。ねこやくま、ねずみが「いないいないばあ」をしています。繰り返しのリズムが心地よい絵本です。一緒に「いないいないばあ」と遊んでみませんか。



『おつきさまこんばんは』

林明子／さく 福音館書店 1986年

夜になって屋根から顔を出したおつきさま。そこへ、雲が出てきておつきさまを隠してしまいました。話が進むにつれて、おつきさまの表情も変わっていきます。そして、最後は雲がどいて「あー よかった」。暗い夜とおつきさまの色の変化が丁寧に描かれている絵本です。



『おはよう』

なかがわりえこ／さく やまわきゆりこ／え
グランママ社 1986年

起きたばかりで半分だけ目を開けたおひさま。大きいあくびをしています。歯を磨いて、顔を洗っているうちにすっかり目が覚めました。朝の生活を優しい色使いで表現した絵本です。同じ作者の『おやすみ』もおすすめです。



『きんぎょがにげた』

五味太郎／作 福音館書店 1982 年

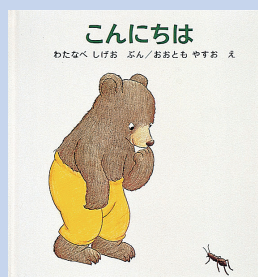
水槽から金魚が逃げ出しました。どこへ逃げたのでしょうか。カーテンの丸い模様の中、植木鉢の花の中、キャンディーの壺の中など、金魚は上手にかくれんぼ。最後に逃げた場所はどこかな？さあ、一緒に探してみましょう。



『くっついた』

三浦太郎／作・絵 こぐま社 2005 年

「きんぎょさんと きんぎょさんが くっついた」。次はあひるが「くっついた」。生き物たちが仲良くふれ合います。最後は、お母さんとわたしとお父さんで「くっついた」。一緒に体やほっぺたをくっつけて遊んでみませんか。



『こんにちは』

わたなべしげお／ぶん おおともやすお／え
福音館書店 1980 年

「おはなさん こんにちは。」くまくんが、道で会った花や動物、人にあいさつをします。すずめやねこ、牛乳屋さん、そして最後はお父さんに「こんにちは！」。お父さんは「やあ、こんにちは」と言ってくまくんを抱き上げます。大きな声であいさつがしたくなる絵本です。

★食べ物の絵本



『くだもの』

平山和子／さく 福音館書店 1981 年

すいかにぶどう、ばなな……。本物そっくりのおいしそうなくだものがたくさん出てきます。赤ちゃんは知っているくだものに反応したり、「さあ どうぞ」に合わせてパクパクと食べるまねをしたりします。絵本の中でおいしいくだものに出会ってみませんか。



『しろくまちゃんのほっとけーき』

わかやまけん／作 こぐま社 1972 年

「わたし ほっとけーき つくるのよ」。しろくまちゃんがお母さんとホットケーキを作ります。「ぼたあん」「どろどろ」「ぴちぴち」など、ホットケーキが焼き上がっていく場面は子どもたちに大人気。さあ、おいしそうなホットケーキのできあがりです。



『どんどこどん』

和歌山静子／作 福音館書店 2011 年

「つちのなかで どんどこ どんどこ」。葉っぱのページをめくってみると、土の中に、にんじん、じゃがいも、さつまいもが伸びています。次は何の野菜かな？本を縦に使い、見開きいっぱい描かれた野菜の絵が迫力のある絵本です。



『にんじん』

せなけいこ／作・絵 福音館書店 1969年

「にんじんの すきなこ だあれ」の呼びかけに、うま、きりん、さるなどの動物たちが答えます。動物たちは「ああ おいしい」と食べています。最後は男の子がにんじんをおいしく食べます。ちぎり絵の質感が温かい絵本です。



『まるくておいしいよ』

くにしえいこ／さく 福音館書店 1999年

「これ なあに。」と出てきたのは、ページいっぱいの大きな赤い丸。ページをめくると、チョコレートケーキが現れました。次はたくさん黄色い丸。それはビスケットとクッキーでした。次々とおいしそう丸い食べ物が出てくるので、丸の大きさや色をヒントに、何が出てくるか当てっこ遊びも楽しめます。



『りんご』

松野正子／ぶん 鎌田暢子／え 童心社 1984年

赤いりんご、黄色いりんご、ピンクのりんご。いろいろな色のりんごの皮をむいたら、白いりんごになりました。切って芯を取ってお皿にのせたら、最後は親子で「ああ おいしい」。優しいタッチで描かれた絵本です。

★動物の絵本



『くまさんくまさんなにみてるの?』

エリック=カール／え ビル=マーチン／ぶん
偕成社編集部／やく 偕成社 1984 年

「くまさん くまさん、ちゃいろい くまさん、なに みてるの?」「あかい とりを みているの」。「あかい とりさん、なに みてるの?」「きいろい あひるを みているの」。動物が次々と何を見ているか尋ねます。ページいっぱい描かれたカラフルな絵が目には鮮やかな一冊です。



『くらいくらい』

はせがわせつこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え
福音館書店 2006 年

「まっくら くらくら くらーい くらい」。暗闇の中にいるのは誰? 「でんきを つけて ちょうだい」とページをめくると、明るい部屋に現れたのは、ことりのピーちゃん。そしてまた真っ暗に。そこにいるのは誰? リズミカルな言葉の繰り返しと、動物たちのユニークな表情が楽しめます。



『たまごのあかちゃん』

かんざわとしこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え
福音館書店 1993 年

たまごの中で赤ちゃんがかくれんぼ。「でておいでよ」と出てきたのは、にわたりの赤ちゃん。かめに、へび……最後はとても大きなたまごが登場します。さあ、何の赤ちゃんかな? 大胆な色使いと躍動感あふれる絵が赤ちゃんを惹きつけます。

でてこい でてこい

はやしあきこ さく



©A2.山田み

『でてこいでてこい』

はやしあきこ／さく 福音館書店 1998 年

大きく描かれた緑色の葉っぱの形に「だれか かかれてるよ でてこい でてこい」。ページをめくると「げこ、げこ、げこ」と中からかえるが出てきました。ピンクの五角形からはうさぎが「ぴょーん、ぴょん」。いろいろな色と形の中から、音と一緒に動物たちが飛び出てきます。

どうぶつのおかあさん



小森 厚
数内正幸

『どうぶつのおかあさん』

小森厚／ぶん 数内正幸／え 福音館書店 1981 年

動物のお母さんは、子どもたちをどのように運ぶのでしょうか？ねこのお母さんは口にくわえて、さるのお母さんはお腹にしがみつかせて運びます。ページから飛び出してきそうな写実的な絵で、親子の姿が温かく描かれています。じっくり読んであげたい絵本です。

ねこが いっぱい

スカール さく



『ねこがいっぱい』

グレース・スカール／さく やぶきみちこ／やく
福音館書店 1986 年

「おおきい ねこと ちいさい ねこ」「しましま ねこと ぽちぽち ねこ」……。たくさんのねこが登場します。最後は「みんな いっしょに にゃーお」とページいっぱいになねこたちが勢揃い。同じ作者の『いぬがいっぱい』もおすすめです。

★その他のおすすめの絵本

『おーいおーい』

さとうわきこ／さく 福音館書店 1998 年

『おうまんしてー！』

三浦太郎／作・絵 こぐま社 2009 年

『おでかけばいばい』

はせがわせつこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え 福音館書店 2006 年

『おにぎり』

平山英三／ぶん 平山和子／え 福音館書店 1992 年

『おふろだ、おふろだ！』

わたなべしげお／ぶん おおともやすお／え 福音館書店 1986 年

『かおかおどんなかお』

柳原良平／作・絵 こぐま社 1988 年

『かささしてあげるね』

はせがわせつこ／ぶん にしまきかやこ／え 福音館書店 1998 年

『がちゃがちゃどんどん』

元永定正／さく 福音館書店 1990 年

『きゅっきゅっきゅっ』

林明子／さく 福音館書店 1986 年

『ここよここよ』

かんざわとしこ／ぶん やぶうちまさゆき／え 福音館書店 2003 年

『コップちゃん』

中川ひろたか／ぶん 100%Orange／え ブロンズ新社 2003 年

『ごろんごゆきだるま』

たむらしげる／さく 福音館書店 2007 年

『たたくとぼん』

寺村輝夫、和歌山静子／作 あかね書房 1970 年

『だっこして』

にしまきかやこ／作 こぐま社 1995 年

『だるまさんが』

かがくいひろし／さく ブロンズ新社 2008 年

『だれかな？だれかな？』

なかやみわ／さく 福音館書店 2003 年

『ちょうちょうひらひら』

まどみちお／文 にしまきかやこ／絵 こぐま社 2008 年

『てんてんてん』

わかやましずこ／さく 福音館書店 1998 年

『でんしゃ』

パイロン・パートン／さく・え こじまもる／やく 金の星社 1992 年

『ととけっこうよがあげた』

こばやしえみこ／案 ましませつこ／絵 こぐま社 2005 年

『なーんだなんだ』

カズコ・G. ストーン／さく 童心社 2004 年

『のせてのせて』

松谷みよ子／文 東光寺啓／絵 童心社 1969 年

『ひまわり』

和歌山静子／作 福音館書店 2006 年

『ぼぼんびぼんぼん』

松竹いね子／文 ささめやゆき／絵 福音館書店 2012 年

『まるまる』

中辻悦子／さく 福音館書店 1998 年

『よこむいてにこっ』

高畠純／作 絵本館 1998 年

5 わらべうた

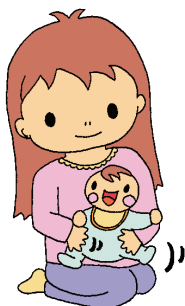
わらべうたは、日本語の音やリズムが心地よく、赤ちゃんの心と言葉を育てます。また、赤ちゃん和大人とのスキンシップにもなります。

赤ちゃんを集中させたり、息抜きをさせたりする効果もあるので、おはなし会の導入やつなぎなどに取り入れてみましょう。

♪ ぼうずぼうず

① ぼうず ぼうず

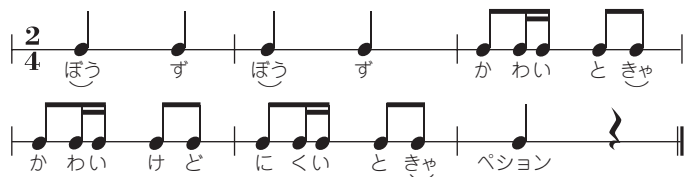
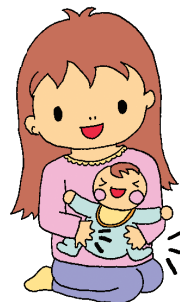
かわいときゃ かわいけど
にくいときゃ
(両足のひざをやさしくなでる)



② ペション

(両足のひざを軽くたたく)

ひざだけでなく、
頭やおなか、おし
りなどでも遊んで
みましょう。



★他にもたくさんのわらべうたや手遊びなどがあります。

★詳しく知りたいときは、6の参考図書（p.29）で紹介している本を参考にとするとよいでしょう。

♪ここはとうちゃんにんどころ

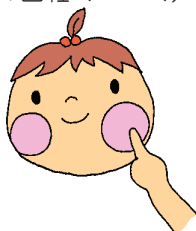
①ここは とうちゃん
にんどころ

(人さし指で右ほほを
4回軽くつつく)



②ここは かあちゃん
にんどころ

(左ほほを
4回軽くつつく)



③ここは じいちゃん
にんどころ

(おでこを
4回軽くつつく)



④ここは ばあちゃん
にんどころ

(あごを4回軽くつつく)



⑤ここは ねえちゃん
にんどころ

(鼻を4回軽くつつく)



⑥だいどー だいどー
(顔のまわりを
2回なでる)



⑦こちょ こちょ
(わきの下などを
くすぐる)



*「にんどころ」とは、似ているところという意味です。

*ゆったりとしたテンポで歌ってみましょう。



6 参考図書

赤ちゃん向けの読み聞かせやおはなし会の実践、絵本の選び方などに役立つ図書をご紹介します。

読み聞かせやおはなし会、絵本選びの本

『赤ちゃんが大好きな絵本』

妊娠中から0，1，2歳まで 愛おしくてたまらない80冊』

赤木かん子、加藤美穂子／著 ポーラスタア 2011年

『赤ちゃん和絵本をひらいたら ブックスターはじまりの10年』

ブックスター／編著 岩波書店 2010年

『赤ちゃん和絵本であそぼう！』

0～3歳・季節のおはなし会プログラム』

金澤和子／編著 一声社 2009年

『いきいき読書ボランティア・ガイドブック』

親子読書地域文庫全国連絡会／編集 親子読書地域文庫全国連絡会 2006年

『えほんのせかいこどものせかい』

松岡享子／著 日本エディタースクール出版部 1987年

『絵本の庭へ』

東京子ども図書館／編 東京子ども図書館 2012年

『絵本BOOK END』2015（特集1 赤ちゃん絵本とブックスター）

絵本学会機関誌編集委員会／編集 絵本学会 2015年

『おはなし会プログラム 季節別年齢別厳選プログラム116本収録』

「この本読んで！」編集部／編集 読書サポート 2008年

『0～5歳子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド
よくわかる！絵本の選び方・読み方』

児玉ひろ美／著 小学館 2016年

『読書ボランティア活動ガイドー

どうする？スキルアップ どうなる？これからのボランティア』

広瀬恒子／著 一声社 2008年

『読み聞かせわくわくハンドブック 家庭から学校まで』

代田知子／著 一声社 2001年

わらべうたの本

『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』

小林衛己子／編 大島妙子／絵 のら書店 1998年

『わらべうたと子ども』

木村はるみ／著 蔵田友子／著 古今社 2001年

『赤ちゃんから遊べるわらべうたあそび55』

久津摩英子／編著 チャイルド本社 2007年

『目あそび・手あそび・足あそび なにしてあそぶ？わらべうた』

佐藤美代子／編著 近藤理恵／絵 草土文化 2001年

『にほんのわらべうた』 1～4

近藤信子、柳生弦一郎／著 福音館書店 2001年





発行日 平成29年3月15日

編集・発行 山梨県立図書館

YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

〒400-0024

甲府市北口2丁目8-1

TEL 055-255-1040

FAX 055-255-1042

URL <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

この冊子に関するお問い合わせ先

山梨県子ども読書支援センター（山梨県立図書館内）

* 当館ホームページからもこの冊子を見ることができます。

* この冊子は個人的な目的に使用する以外で複写・転載することはお控えください。